

私の想い

分館活動を通して



大崎公民分館
分館長
川畑 紘一

皆様方には、日頃から分館活動にご協力いただき誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

私は大崎公民分館の役員の一員として30数年になりますが、役員当初の行事で一番印象に残っているのは、分館運動会であります。

伝統あるこの運動会も、今年で39回目、長い年月と歴史を感じております。

この運動会を行うにあたっては、地区から選出された、地区部長を始め自治公民館長、体育部長、小・中学校実行委員、婦人代表の皆さんに集まっていたいただき競技を説明し、選手を選出してもらっていますが、集落においては

組織が機能してないところもあり、なかなか思うように行かないのが現状です。

昔は子どもたちも多く、どの集落も親子会の活動が盛んな頃で、夏休み期間中は朝ラジオ体操、夕方は親子ソフトボール大会の練習、お父さん、お母さんも、忙しい夏休みで子どもたちのために頑張っている姿がありました。

また、運動会の選手になるのも大変な時期で、集落においては予選をし、選手を決めていたところもありました。そして、集落や地域には、「げんきぼ」がおり、皆さんをまとめて積極的に取り組んでいたとき、楽しく活動ができたように思います。

今では少子高齢化が進み、それにスポーツ少年団の大会や、中学校の部活の大会等と運動会が重なり、選手の選出が難しくなっているの役員になられた方々が大変な思いをされています。大会も大事だと思えますが、地域の行事にも参加し、集落の皆さんと触れ合うことも大事なことでないでしょうか。

子どもたちも少なくなり、一集落では活動できない集落もあります。子どもたちの可能性を見出すためにも、近隣集落と連携を取りながら活動することも、考えてみる必要もあると思います。

この運動会のように、一堂に会して行う行事は他にはありません。大変意義のあるすばらしいことだと思っております。

今、集落や地域の希薄化がよく言われていますが、このような活動を通じ、集落や地域の交流や絆を深め、また、活性化を図り、青少年の健全育成に役立ち「安心、安全なまちづくり」ができればと思っております。

これからも益々少子高齢化が進みますが、この分館運動会はこれからも継続していきたいと思えますし、その他行事についても、校区の皆さんが元気で、楽しんでもらえるような行事を計画していきたいと考えておりますので、分館活動にご理解、ご協力ください。よろしくお願いいたします。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

政府は、昨年12月発表の月例経済報告で、物価動向の現状判断を「底堅く推移している」と変更し、約4年2か月ぶりにデフレという表現を削除しました。

アベノミクスによる経済回復の賜物といえるが、一方で、円安に伴う輸入物価の上昇や、本年4月からの消費税引き上げが景気に与える影響についても心配が絶えません。

政府の景気刺激策が相次いで発表される中、本格的なデフレ脱却宣言に向けて、干支の「午」にあやかり、物事がウ・マ・くはかどおり、誰もが未来に希望を持てる明るい年になって欲しいとの願いを込めて、本年も本町発展のために、全力を尽くして参ります。

ここに、議会だより130号をお届けいたします。

(広報広聴常任委員 吉原 信雄)

発行責任者 大崎町議会議長

中倉 毅